

2026 年 7 月 15 日

各 位

会 社 名 abc 株式会社
 代表者名 代表取締役社長 松田 元
 (コード：8783、スタンダード市場)
 問合せ先 経営企画部 部長 谷井 篤史
<https://www.abc.co.jp/form/corp/>

2026 年 8 月期 連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績の動向等を踏まえ、2025 年 10 月 15 日に公表しておりました 2026 年 8 月期（2025 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2026 年 8 月期 連結業績予想の修正（2025 年 9 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）

(単位：百万円、円・銭)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	3,725～5,725	896～2,896	9,606～11,606	6,201～6,551	164.2～173.56
今回発表予想(B)	2,222	△2,143	未定	未定	－
増減額(B-A)	△1,503～ △3,503	△3,039～ △5,039	－	－	－
増減率(%)	△40.3～ △61.2	－	－	－	－
ご参考：前期実績 (2025 年 8 月期)	1,109	△922	781	526	－

(注)前期連結実績（2025 年 8 月期）は、決算期変更により 2025 年 4 月 1 日から 2025 年 8 月 31 日までの 5 ヶ月間決算となっております。

2. 業績予想修正の理由

今回、2026 年 7 月 15 日付で公表いたしました「2026 年 8 月期第 3 四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」の実績、および直近の当社グループの経営方針に伴う事業状況の変化を踏まえ、通期の連結業績予想を修正いたしました。

売上高につきましては、前回発表予想の下限値を大きく下回る見込みとなりました。その主な要因は、金融サービス事業において上場企業等に対する資金調達支援やエクイティ投資、トレーディングによる売買利益の積み上げが想定を下回ったこと、およびクレーンゲームジャパン株式会社が運営する国内外のクレーンゲームアプリの稼働による売上高が計画を下回ったことです。

また、abc CAPITAL 株式会社による暗号資産ディーリング業務において、今期より派生して開始予定であったハイブリッドトレジャリー戦略（ビットコイン買付戦略の上場企業等への導入推進）が、当期限りで同事業からの撤退方針への転換等に伴い、実行に至らなかったことも大きく影響しております。

営業利益につきましては、これら各事業において想定対比で売上高が未達となった一方で、事業運用に関わる固定費や販売促進費などの販売費及び一般管理費が先行して発生した結果、売上高総利益率が低下し、営業損失が拡大する見込みとなりました。

当社グループは現在、中期的な企業価値向上に向けて「事業ポートフォリオの最適化」と「経営資源の選択と集中」を加速させております。

その一環として、2026年7月1日付「連結子会社の異動（株式譲渡）に関する基本合意書締結のお知らせ」のとおり、連結子会社であるネクスト・セキュリティ株式会社の当社保有全株式を ReYuu Japan 株式会社へ譲渡することに関し、基本合意書を締結いたしました。今回の通期連結業績予想においては、現況の業績動向に加え、当該株式譲渡に伴う同社の連結除外による影響等、今後の事業整理に伴う減少要因も織り込んで算定しております。

一方で、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の通期予想に関しましては、本日現在において合理的な数値の算定が困難であるため「未定」としております。

当第3四半期連結累計期間の実績においては、営業外収益として暗号資産売却益等を計上した結果、経常利益 657 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益 934 百万円の黒字を確保しております。しかしながら、2026年7月6日付「暗号資産ディーリング事業の撤退に関するお知らせ」に基づき、本日以降、保有する暗号資産等の関連資産について、市場への影響や流動性、価格動向等を勘案しながら順次売却その他の処分を進めていく予定です。

この暗号資産の最終的な処分価格に伴う営業外損益への影響、および前述したネクスト・セキュリティ株式会社の株式売却に伴う関係会社株式売却損益（特別損益）等の確定額については、今後の市場動向や精査の結果に左右され、現時点で通期末時点の正確な着地を見極めることが困難であるため、未定といたしました。数値の算定が可能となった段階で、速やかに開示いたします。

なお、今後は価格変動リスクを伴うディーリング（運用）業務からは全面的に撤退するものの、Web3 事業部における暗号資産に関連するプロダクトの開発、各種関連エコシステムへの技術・開発支援、および「Web3 コンサルティング事業」へ経営資源を集中投下し、透明性が高く確実な価値を生み出す事業基盤の再構築を徹底してまいります。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上